



～夢の素材をつくる 花と絵と音楽と水のある学校～

# 国立二小だより

平成26年12月1日  
国立市立国立第二小学校  
校長 小林 理人

## 地域の宝を活かし、地域・社会の宝を育てる

生活科・総合的な学習を中心として

校長 小林 理人

### 自分を認めること

私自身の教員経験の中で様々な子供たちと出会い、かかわる中で強く感じていることがあります。

自分が認められていると感じている子供からは、「友達を受け入れる」「友達の過ちを許す」などができる「心のゆとり」を感じます。反対にマイナス面の指摘を多く受けたり注目や愛情を十分に感じ取れていない子供は、「友達を攻撃する」「友達の過ちや弱さを許すことができない」ことで友達とのトラブルが多くなる傾向があるように感じます。

二小の子供たちはとても穏やかです。多くの子供たちの表情には認められている安心感があります。また、先日結果が報告された6年生を対象とした全国学力・学習状況調査の一つとして行われた意識調査では、「自分には、よいところがあると思いますか」という設問に対して「当てはまる」と回答した児童の割合が42.7%と全国の平均(35%)を7.7%上回りました。

この結果からも、二小の家庭や地域で育った本校の6年生は、全国の平均と比べて自分を認めることにつながる「自分のよさに気付く経験」をしている子供の割合が高いことが分かります。

### 地域のよさを感じる

自分を認めることが、友達を受け入れたり過ちを許したりするものになるならば、子供たちが生活する地域のよさを感じたり関心をもったりすることは、他の地域のよさを認め、力を合わせて共生するものになると考えることができます。

前に紹介した全国学力・学習状況調査(意識調査)の「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」という設問に対して「当てはまる」「どちらかという当てはまる」と回答した児童の割合がそれぞれ20.0%、30.7%で、肯定的な評価の割合としては50.7%となり、全国の平均(42.5%)を8.2%上回りました。

この結果から、二小の地域で育った本校の6年生は、全国の平均と比べて、地域のよさを感じたり関心をもったりすることにつながる「地域について考える経験」をしている子供の割合が高いことが分かります。

### 地域の宝を活かし、地域・社会の担い手を育てる学習

この「自分を認めること」「地域のよさを感じること」ができる子供がたくさんいることやこうした子供が育つ環境が地域にあることが二小の大きな特徴であり強みでもあります。

そこで、学校ではこのような素晴らしい環境を地域の宝として、そこにある「人」や「もの」を活かし、子供たちが自分のよさや可能性に気付くような活動を工夫しています。また、他者を理解し、持続可能な共生社会をつくるために必要な思考力や実践力、コミュニケーション能力等を育てるために「生活科・総合的な学習の時間の学習」の充実を図っています。具体的な内容を、裏面「生活科・総合的な学習の時間の学習の紹介」として掲載させていただきました。

今後とも、この恵まれた環境を地域の宝として、そこにある「人」や「もの」を活かし、子供たちに地域・社会の担い手として必要な力を育てていきたいと思っております。